

研究分野	1 漁業経営の高度化・安定化に関する研究 開発	部 名	企画指導部
研究課題名	(2) 市場流通に関する研究		
予算区分	県単（管理運営費）		
試験研究実施年度・研究期間	平成 26 年度～令和 5 年度		
担当	(主) 岸 航平 (副) 佐々木 律子、大野 宣和		
協力・分担関係			

<目的>

本県の主要養殖生物であるホタテガイ、カキは、東日本大震災津波により生産量が激減した。復旧・復興事業で漁船や施設など生産体制は回復しているものの、生産は震災前の6割に留まっている。震災で失った市場シェアや新たに得た流通体制などの状況や価格動向については把握・解析されていない。

そこで、ホタテガイ、カキの流通をモニタリングし、震災後の市場シェアを再確認するとともに、価格決定要因を解明することにより、価格向上やニーズにあった出荷体制等を提案し、養殖漁家所得の向上を図ることを目的とする。

<試験研究方法>

震災前後のむきカキの流通状況を把握するため、東京都中央卸売市場年報（東京都中央卸売市場）を用いて東京都中央卸売市場における取扱数量及び価格を調査した。データの集計範囲は 2006～2017 年とし、2006～2010 年（以下、「震災前5か年」という。）と 2017 年の取扱数量及び取扱数量シェアを月別で比較した。

また、家計調査年報（2人以上の世帯、総務省）からカキ購入数量及び購入価格（生鮮魚介（2015 年基準）でデフレート）を集計し、関係を検討した。

<結果の概要・要約>

1 年別における推移

(1) 取扱数量及び取扱数量シェア

東京都中央卸売市場年報によると、岩手県産むきカキ取扱数量の震災前5か年の平均は467 トンであり 20%のシェアを占めていた。同期間における他県のシェアは広島が 31%、宮城が 20%であり、広島が 1 位で岩手、宮城と続いていた。

2017 年の岩手県産むきカキ取扱数量は 292 トンあり、震災前を下回るものの、全国 2 位であった。岩手県産むきカキ取扱数量シェアは、震災の翌年の 2012 年には 1%未満にまで減少したものの、2013 年以降は回復傾向にあり、

2017 年のシェアは震災前を下回るものの 15%であった（図1）。

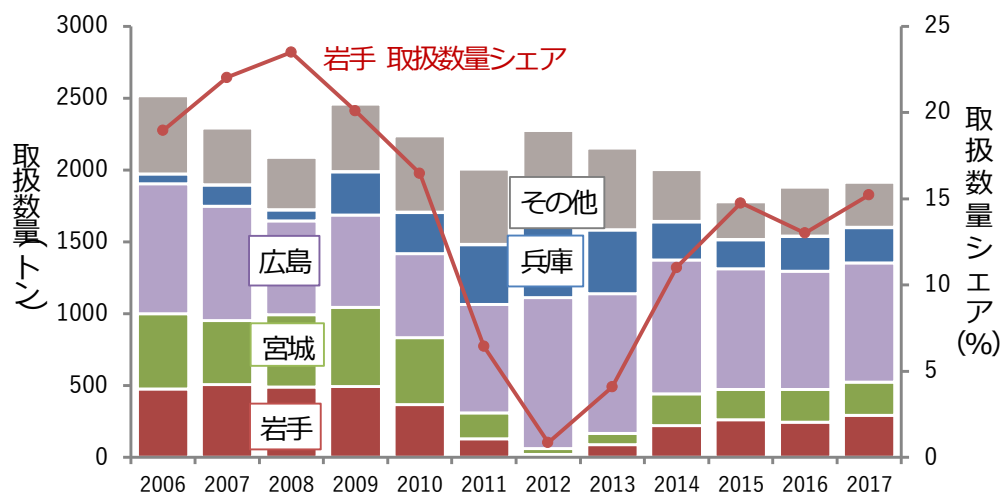


図1 むきカキの主産県別年別取扱数量推移

東京都中央卸売市場年報（東京都中央卸売市場）を加工して作成

(2) 平均価格

岩手県産むきカキの震災前5か年の平均価格は1,704±475 円/ kg であった。震災後は変動幅は大きいものの2,000 円/ kg を超える高値で推移していたが、2017 年は1,765 円/ kg と震災前の水準に近い価格となった(図3)。

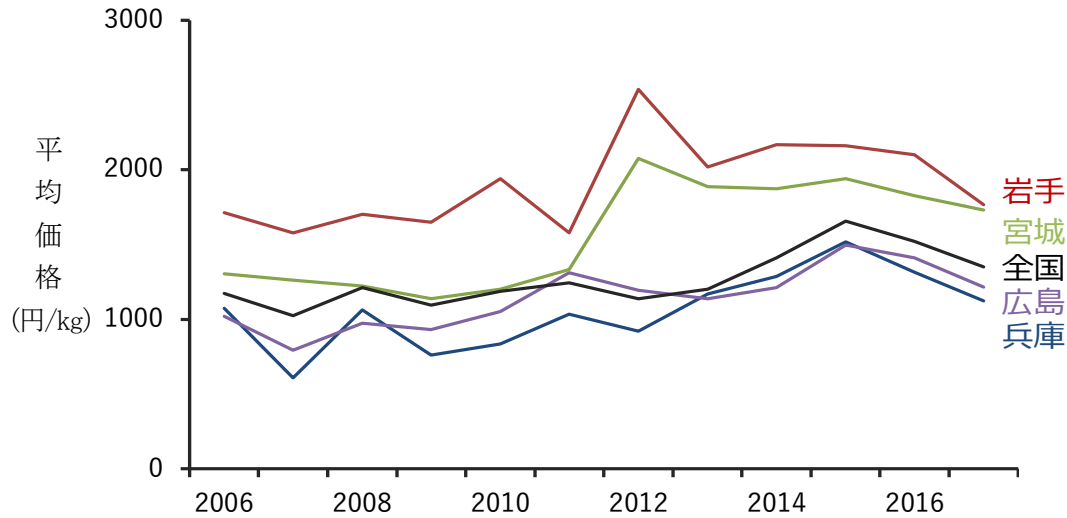


図2 むきカキの主産県別平均価格の推移 (2006-2017)

東京都中央卸売市場年報(東京都中央卸売市場)を加工して作成

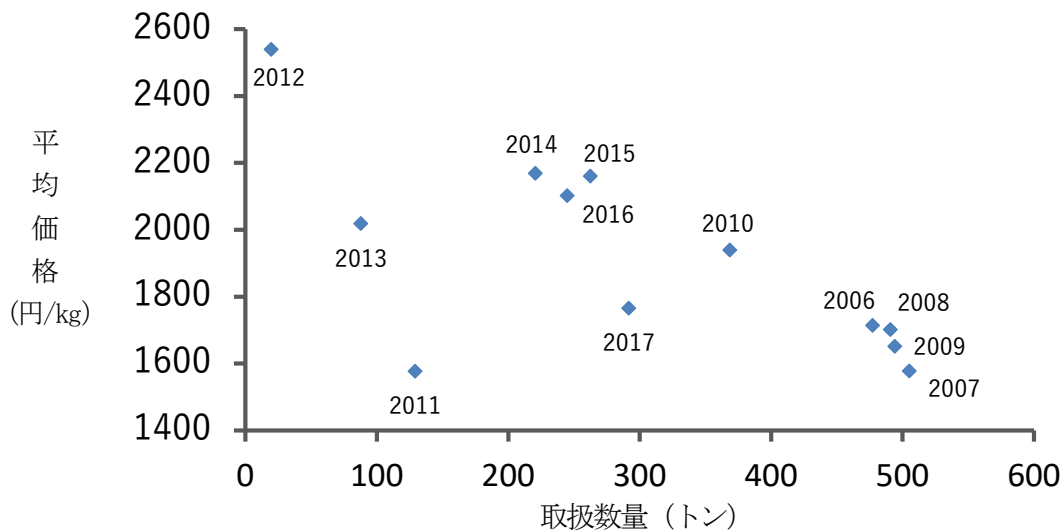


図3 岩手県産むきカキ年別平均価格及び取扱数量の関係

東京都中央卸売市場年報(東京都中央卸売市場)を加工して作成

2 月別における推移

(1) 取扱数量及び取扱数量シェア

震災前5か年の平均取扱数量を月別で見ると1~3月が26~75トン、4~9月は0~7トン、10~12月が97~105トンであり、10~12月の取扱数量が顕著に高かった(図4)。また、同期間のシェアについては1~4月が10~17%、5~9月が0~7%、10~12月が26~36%であり、10~12月のシェアが顕著に高かった(図5)。2017年においては、1~3月は34~42トンと震災前を上回る一方、10~12月が51~55トンと震災前より低い数量を示していた(図4)。また全期間のシェアについては15%であり、震災前を下回るものの、全国2位であった。月別では、1月及び10~12月は12~28%と震災前を下回る一方、2~6月は12~24%と震災前より高い割合を示した(図5)。他県のむきカキの取扱数量シェアは、広島県が43%(数量830トン)、で全国1位であり、月別では1~4月及び9月、11~12月に岩手県を上回る

シェアを占めていた。全国3位は兵庫県で13%（数量246トン）であり、すべての月で震災前よりシェアを伸ばし、特に1～3月及び7～9月に岩手県のシェアを上回っていた（図5）。

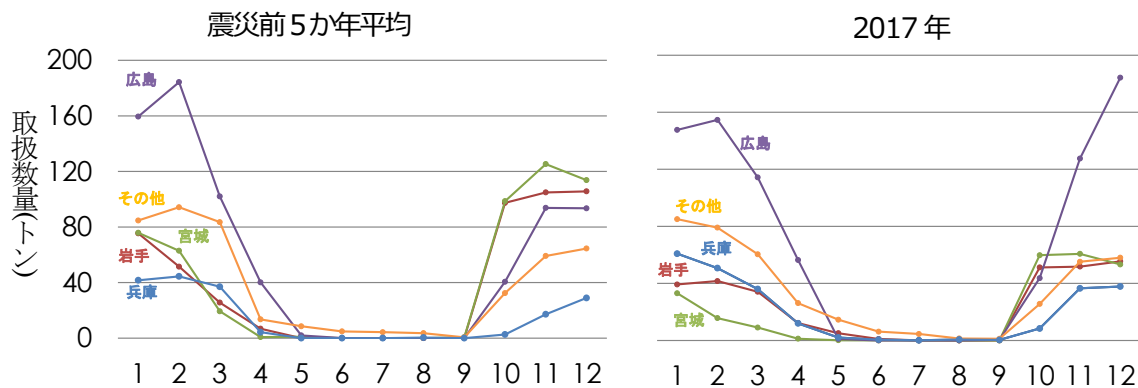


図4 東京中央卸売市場築地市場におけるむきカキ月別取扱数量推移

東京都中央卸売市場年報（東京都中央卸売市場）を加工して作成

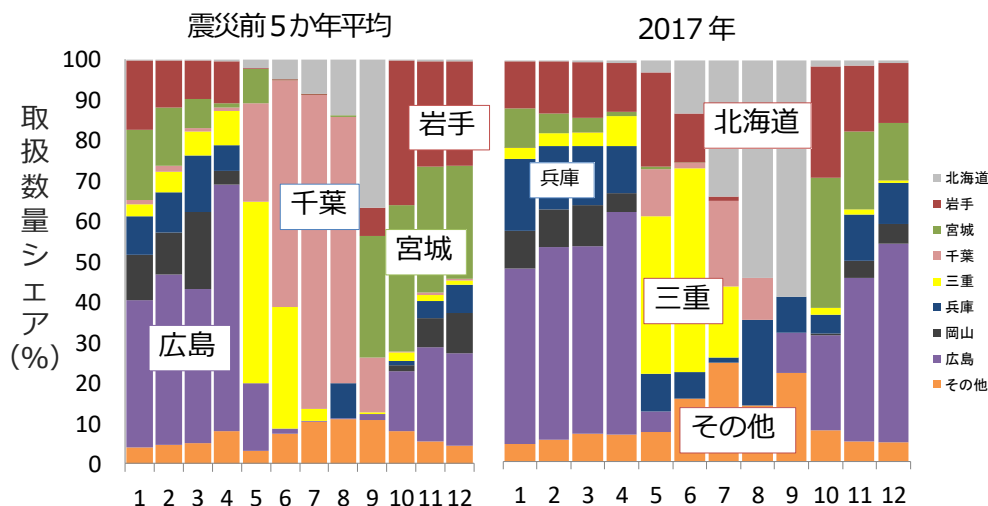


図5 東京中央卸売市場築地市場におけるむきカキの月別取扱数量シェア推移

東京都中央卸売市場年報（東京都中央卸売市場）を加工して作成

(3) 平均価格

岩手県産むきカキの震災前5か年の月別平均価格をみると、9月の2,021円/kgをピークに徐々に値を下げているものの、3月までは他県と比較しても高値がついている。取扱数量が大きく減少する4月以降の平均価格は770～1,015円/kgと盛期のほぼ1/2であった。2017年の月別平均価格についても秋季の出荷が1カ月遅れたこと以外は、震災前と同様の傾向であった（図6）。

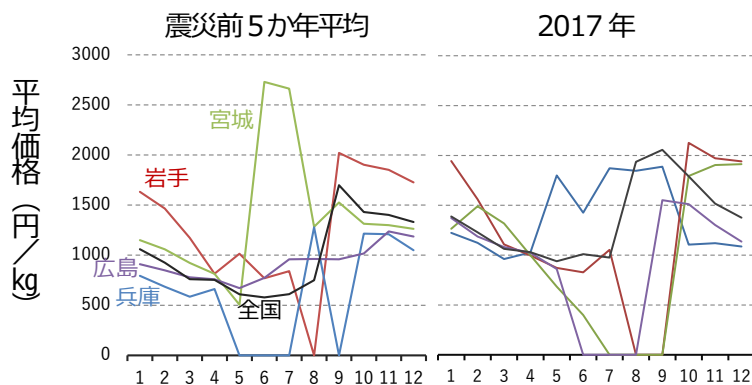


図6 東京中央卸売市場築地市場におけるむきカキの月別平均価格推移

東京都中央卸売市場年報（東京都中央卸売市場）を加工して作成

3 東京における年間1人当たりのカキ購入量と購入価格の推移

東京における年間1人当たりのカキ購入数量は、震災前5か年平均が209gであり、2017年には154gに減少していた。一方で、平均価格は上昇傾向にあり、震災前5か年平均は187円/kgであったのが2017年には209円/kgとなっていた（図7）。

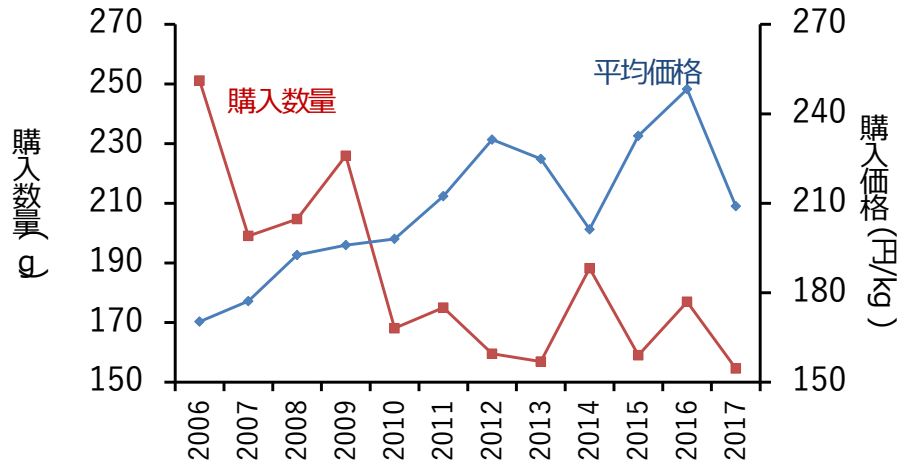


図7 東京における年間1人当たりのカキ購入量と購入価格の推移

家計調査年報（総務省）を加工して作成

<今後の問題点>

東京都中央卸売市場の取扱数量は震災前のシェアを下回って推移していることから、今後、シェアの回復のため、生産動向や価格動向の継続的なモニタリングとシェア変動の要因などの検討が必要である。

また、統計には反映されていない出荷・流通の実態や市場のニーズに対応した出荷体制等を検討するため、県内業界団体や豊洲市場の買付け人からの聞き取り等が必要である。

<次年度の具体的計画>

東京都中央卸売市場年報や漁業・養殖業生産統計のほか、他県の動向を含めた関連データの収集・分析と、県内業界団体からの聞き取りを行い、価格向上策や消費地ニーズに対応した出荷体制の検討を行う。

<結果の発表・活用状況等>

1 研究発表等

岩手県産むきカキの流通動向と価格形成要因について（第62回岩手県水産試験研究発表討論会）